

2025年（令和7年）10月24日

発信者：東京馬洗会会員 杭迫重臣

東京馬洗会会長 退任のご挨拶

皆様に於かれましては、ご清祥にてお過ごしのことと拝察いたします。

平素はつい目先のことに追われ、失礼を重ねることも多く、大変申し訳ございません。

さて、私は、去る10月18日に開催されました令和8年度東京馬洗会総会において、会長を退任しました。振り返って見ますと、10年前、当時の会長であられました麻田巧会長より、「今後の東京馬洗会の運営は昭和40年代以降の卒業の皆さんが中心となって進めて頂きたい」とのご要請が有りました。当たりが良かったか悪かったかはさて置きまして、たまたま私は昭和40年、日彰館高等学校を卒業しました。

仕事も一区切りついていたことや何よりも私を育てて貰った母校と広島県北に、何か恩返しをとの思いから、微力ではございますが、お引受けすることと致しました。

以来、足掛け10年、概ね大過無くこの大役を全う出来たのは、何よりも全ての会員の皆様や同窓会本部を始めとする関係者の皆様のご理解ご協力、そして数々の叱咤激励のお陰でございます。改めまして、衷心より厚く御礼申し上げます。

あつた言う間の10年でしたが、最も印象に残っていますのは、就任間もなく本校創立120周年記念を、昨年は130周年記念を迎え、各種の記念事業を同窓会本部の皆様と共に取り組めたことでございます。

また、大きな出来事としましては、本会が末永く活動していくためには財政基盤の強化が不可欠で有るとして、運営協力金制度を新設したこと、昨年が続いて今年も、手つかずのままであった本会会則について、時代環境の変化に対応して改定に取組んだこと、恒例となりました毎春の観桜会の開催、世羅高校東京校友会との交流の深化などございますが、何よりも本会運営の生命線とも言える運営協力金について、厳しい生活環境下にも拘わりませず、多くの皆様からご協力を戴いたことでございます。本書面をお借りして、ご協力を戴いた全ての皆様に厚く御礼を申し上げます。

大過無く任を全う出来た中、数年前の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、皆様の安心と安全を確保するためにリアルな集いによる総会を中止、過去に例の無い書面審議方式の採用で通常総会に準ずることが出来たこと、同様の事情で観桜会の中止の決断を余儀なくされたことでございます。強いて、心残りなことと言えば、出来たら年に一度でも発行しなかった本会の会報の発行が出来なかったことでございます。

末筆となりますが、会員の皆様は元より、関係者の皆様とご家族の皆様の末長いご健勝を祈念申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。有難うございました。 拝